

## 1 社会・治安情勢

### (1) カラチ市

2013年9月以降、準軍組織レンジャー及びシンド州警察がパキスタン・ターリバン運動（TTP）等のテロ組織を集中的に取り締まり、検挙及び銃器や爆発物等の押収を進め、大規模な爆弾テロ等の阻止を図る通称「カラチ掃討作戦」を現在も継続中のところ、テロ発生は減少し、治安が改善していると認められる。

10～12月にかけては、10月までに警察官等を狙ったテロ組織が警察等により壊滅され、また、大規模な宗教行事でテロ事件が1件も発生せず、法執行機関の対策が功を奏している。

一方、10月に市内の2つの病院がテロ組織の爆破テロ計画の対象となり、また、12月下旬にカラチ空港に銃器が持ち込まれる等、ハードターゲットに対するテロ発生の脅威は未だ存在している。また、ISILのリクルーターが逮捕される等テロ組織のカラチ市への浸透が危惧されている。さらに、11月下旬に宗教団体の抗議活動により暴力的な衝突が起こり、公共交通機関が麻痺する等混乱が生じており、未だ治安情勢は改善途上であり、不安定であることを示した。

### (2) バロチスタン州

10～12月も引き続き治安機関によるテロリスト掃討作戦が継続され、多くのテロリストの逮捕、投降等あるものの、宗教過激派や民族主義武装集団による異宗派、移民、治安機関を対象とした標的殺人や爆弾テロ事件は依然多発している。

州都クエッタ市において警察高官に対する襲撃事件が頻発しており、キリスト協会に対する自爆テロも発生した。同州では、現在も治安機関とテロ集団が臨戦状態にあり、治安情勢は極めて悪い。

## 2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

### (1) 犯罪統計

カラチ市警察が発表した10～12月の犯罪統計によれば、カラチ掃討作戦の成果により、殺人、強姦は昨年同期より漸減しているが、身代金目的誘拐、強盗は横ばいであり、市民に身近な窃盗等の街頭犯罪の発生件数は増大していることから、引き続き十分な注意が必要である。また、薬物所持および武器不法所持事件の多発は、治安機関の取締りの成果と見なしうる反面、暴力団およびテロ集団の資金源とされる違法薬物が蔓延し、テロ、殺人、強盗等凶悪事件の元凶となっている違法武器が広く流通していることも事実であり、治安状況は依然として予断を許さない状況が続いている。主な犯罪種別の内訳は以下のとおり（カッコ内は前年同期）。

- ・ 総犯罪発生件数        9,353件（9,185件）
- ・ 殺人                        98件（113件）
- ・ 身代金目的誘拐        8件（8件）

- ・ 強盗 687件（695件）
- ・ 強姦 23件（34件）
- ・ 窃盗 1,585件（1,291件）
- ・ 薬物所持 1,505件（914件）
- ・ 武器不法所持 1,563件（1,412件）

（２） 邦人関連事案

無し

３ 主なテロ関連事案等

（１） シンド州・カラチ

- ① １０月５日、カラチ市カワジャ・アジメル・ナグリにおいて警察などが市内において大きなテロ攻撃を計画していたテロ組織ラシュカレ・ジャングビ（LeJ）のミリタントと交戦し、ミリタント２名が逃走するも、１名は死亡した。
- ② １０月５日、レンジャーは、カラチ市マリール地区サウダバッドにおいて、MQM-Lの構成員３人を逮捕した。
- ③ １０月７日、カラチ市ガダップタウン、ノーザンバイパスにおいてマリール警察がテロ組織AQISのアジトを急襲し、交戦となり殺害した。
- ④ １０月１２日、カラチ市オレンジ警察管内で、シンド警察テロ対策局（CTD）は複数の標的殺人に関与したとしてMQM-Lの構成員２人を逮捕した。MQM-H, SSPの活動家を殺害したことを認めている。
- ⑤ １０月１７日、シンド州ルスタム郊外においてルスタム警察がバロチスタン解放軍（BLA）のテロリストのアザム・ブグティを逮捕した。
- ⑥ １０月１９日、カラチ市マリール地区メモン・ゴスにおいてレンジャーとリヤリ・ギャングの指揮官ガフルが交戦となり、殺害された。
- ⑦ １０月２１日、シンド州サッカルのマルカジ・イマームバルガーにおいてカナダ人を誘拐しようとシーア派を偽装した団体が押し入ったが、救出された。
- ⑧ １０月２２日までに、カラチ市バルディア地区において、テロ組織アンサール・シャリーア・パキスタン（ASP）がレンジャーとCTDと交戦し、同組織の構成員８名が殺害された。
- ⑨ １０月２７日、カラチ市内の主要な２つの公立病院が、国家テロ対策局（NACTA）から、AQISが攻撃を計画しているとの具体的な脅威があるとの警報を受けた旨の報道がなされた。
- ⑩ １１月６日、カラチ市サイト・スーパー・ハイウェイ地区においてISIL構成員３人が逮捕された。
- ⑪ １１月８日、カラチ市ノースナジマバッド地区において公安部門に所属する警察官がバイクに乗った犯人に発砲され、死亡した。

- ⑫ 11月8日、シンド州ジャムショローのメヘラン工科大学入り口付近に設置された爆弾5個を爆弾処理部隊が無力化した。
- ⑬ 11月10日、レンジャーはシンド州ローリ（当館から約370km北東）で自爆テロを敢行する予定であった2名及び調整者1名を射殺した。
- ⑭ 11月17日、同年2月16日に発生したダドゥ郡セブンに位置するラル・シャハバーズ・カランダル聖者廟での自爆テロの主要な容疑者がカラチ市において逮捕された。同人はISIL構成員だった。
- ⑮ 11月25日、首都イスラマバード近郊での宗教団体の抗議に応じ、カラチ市内において宗教団体の抗議運動が行われている中で暴力的な衝突が発生し、35人の負傷者が出た。
- ⑯ 12月6日、カラチ市DHA地区の26thストリートにおいて実業家の5歳の息子が、武装した男達に誘拐され、身代金支払い後解放された。
- ⑰ 12月14日、カラチ市マディナ・コロニーにおいて、テロ組織シパヘ・ムハンマド・パキスタン（SMP）の活動員1人がレンジャーにより逮捕された。
- ⑱ 12月23日、カラチ国際空港においてマレーシア人の男性が銃の部品を持ち込んだ容疑で逮捕された。
- ⑲ 12月30日、カラチ市近郊、スーパーハイウェイのアユーブ・ゴス付近のガリババッドにおいて警察はISILのミリタント5人を交戦の上殺害した。

## （2）バロチスタン州

- ① 10月5日、ジャル・マグシ地区ファテブルのピル・ラカエル・シャーの聖者廟前で自爆テロが発生し、少なくとも19名が死亡し30人以上が負傷した。ISILが犯行声明を出した。
- ② 10月9日、クエッタ市カシ・ロードにおいてシーア派ハザラ・コミュニティ3人を含む5人が車両に対する襲撃を受け殺害された。
- ③ 10月18日、クエッタ市サリアブ・ロードにおいて爆発により少なくとも7名の警察官及び市民22人が負傷した。
- ④ 10月24日、クエッタ市ハザラ・ガンジ地区の野菜市場付近で、警察署長が乗車していた警察車両に対し、遠隔操作によりIEDが爆発し車両が損壊したが負傷者は無かった。
- ⑤ 10月26日、ケッチ県トウルバットにおいて異なる禁止団体に所属する分離主義者のミリタントが新聞販売店に手榴弾を投げ、交通警察官や子供を含む8人が負傷した。
- ⑥ 10月27日、ハルナイ（州都クエッタから東約100km）で、アワミ民族党（ANP）の地元幹部であるアブドゥル・ラザク氏及び同人の兄弟1名が爆発により死亡した。
- ⑦ 10月27日、ボランのハイラク地区付近において、ラホール行きの特急車両に

対し線路に仕掛けられた爆弾が遠隔操作により爆破され、6人が負傷した。

- ⑧ 11月7日、カラト（州都クエッタから南約130km）で、警察の検問所が襲撃され巡査1名が殺害された。
- ⑨ 11月9日、クエッタ市において自爆テロが発生し、州警察のDIGハミッド・シャキールを含む警察官3名が死亡し、他9名が負傷した。
- ⑩ ケチ県で、少なくとも15名の男性が銃殺された。遺体が発見された場所は州都クエッタから約600km離れた山岳地帯。
- ⑪ 11月15日、クエッタ市ナワン・キリ地区で警察高官（警視正に相当）及び同人の家族3名が、車両移動中に襲撃され殺害された。
- ⑫ 11月25日、クエッタ市サリアブ・ロードで準軍組織FCの車列に対する自爆テロが発生し、5名が死亡、27人が負傷した。
- ⑬ 11月25日、パスニ（グワダルから東に約100km）付近で、武装集団が、水利電力開発公社の事業に従事していた作業員を襲撃しFC隊員1名が殉職した。
- ⑭ 11月29日、シビ（州都クエッタから南東約110km）で、路傍に設置された地雷が爆発し、FC隊員2名が死亡、4名が重傷を負った。
- ⑮ 12月7日、カーラン（州都クエッタから南西約240km）で、学校の警備に従事していたFC隊員2名が2発のRPGにより負傷した。
- ⑯ 12月9日、クエッタ市で、オートバイクに乗車した何者かがタクシーに向け発砲し、乗車していたハザラ人男性1名が負傷した。
- ⑰ 12月9日、ハブ（州都クエッタから南約560km）で時限爆弾が爆発し、沿岸監視隊のオフィス前にいた2名が負傷した。
- ⑱ 12月17日、クエッタ市ザルグーン・ロードに位置するベテル・メモリアル・メソジスト教会に対し自爆テロ攻撃があり、9名が死亡、56名が負傷した。
- ⑲ 12月22日、ボラン地区の炭鉱に向かう途中、シーア派ハザラ・コミュニティに属する男性2名がバイクに乗った男の襲撃を受け殺害された。
- ⑳ 12月22日、ボラン地区の炭鉱に向かう途中、シーア派ハザラ・コミュニティに属する男性2名がバイクに乗った男の襲撃を受け殺害された。
- ㉑ 12月30日、カラン県においてFCがオイル・タンカーを停止させるも、相手は車両を衝突させ、FC隊員5名を殺害し逃走した。

#### 4 誘拐・脅迫事件発生状況

カラチ市警察が発表した10～12月の犯罪統計によれば、カラチ市内における身代金目的誘拐は8件（前年同期8件）発生し、誘拐を巡る状況は数年前より改善しているが、いまだ高い発生率で推移していることから、引き続き十分な注意が必要である。邦人が被害となる誘拐事件は発生していないものの、5月にバロチスタン州クエッタ市において中国人2名が誘拐・殺害され、また、10月21日、シンド州サッカ

ルの寺院においてカナダ人が誘拐未遂に遭っており、依然外国人に対する誘拐の危険は高い。テロ組織が資金獲得のため犯行に及ぶ場合や、一般犯罪組織等が誘拐した被害者を金銭目的で売り渡す場合もある。当地で生活する場合、誘拐犯などの犯罪者に隙を与えない日常行動が重要である。

## 5 日本企業の安全に関する諸問題

### (1) 渡航の際の留意事項

当地では現在、TTP等テロ集団による治安機関に対する報復に対して警戒を強めている状況にある上、比較的警備の手薄ないいわゆる「ソフトターゲット」がテロの標的とされる傾向にある。よって、当地へ渡航される場合は、事前に報道等により最新の治安情報を確認するとともに、外務省ホームページに掲載されている渡航情報等を参考にし、渡航の是非を充分検討していただきたい。

### (2) 駐在される場合

当地ではテロの危険がある他、けん銃強盗等の路上犯罪も頻発しており、実際に在留邦人被害の強盗事件も発生している。また、テロ集団による営利を目的とした誘拐等の被害に遭う可能性も否定できないことから、当地に駐在される場合は、必ず外務省海外安全ホームページ掲載の「ゴルゴ13の中堅・中小企業向け安全対策マニュアル」等各種安全対策資料や当館ホームページ掲載の「安全の手引き」等をご活用の上、十分な安全対策を講じていただきたい。

もし事件に巻き込まれた場合、在外公館と在留邦人が緊密に連携して情報を共有し、安全を確保する必要があることから、当館への連絡を徹底していただきたい。